

(海外・国内) 出張報告書 (学生用)

2015年 2月 24日提出

氏名	森田 智也
所属	獣医内科学教室
学年	D1
出張先	パシフィコ横浜
出張期間	2015.2.20～22
目的	第 11 回日本獣医内科学アカデミー学術大会における発表

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

申請者は本研究科附属動物病院において獣医師として診療に参加している。その中でも特に循環器疾患に関心を持ち診療にあたっている。また博士論文のテーマは「犬心疾患における新たな右心機能評価指標の確立」である。その研究内容のひとつである心エコー図指標、Tei-index、を附属動物病院に来院した症例へ適用しその成果をまとめたものを第 11 回日本獣医内科学アカデミー学術大会において発表することとした。本学会は、毎年 2 月に横浜の同会場にて 3 日間開催される最も規模の大きい臨床獣医学会であり、獣医師はもちろん、学部学生、動物看護師も多く参加する学会である。またその講演、発表の範囲は小動物の循環器、呼吸器、内分泌、皮膚病や腫瘍学、整形外科など多岐にわたり、国内の獣医師 (講師)のみではなく海外の獣医師による講演も行われた。

申請者は学会 2 日目に一般発表のセッションにおいて発表を行った。発表演題は「肺高血圧症への Dual pulsed-wave Doppler 法を用いた右室 Tei-index 測定の有用性」である。発表の概要は、これまで右心室機能は過小評価されてきていたが近年右心機能不全が様々な疾患において予後不良因子であることや主に右心が影響を受ける肺高血圧症の重要性が明らかとなってきたこと、右心機能評価への注目が高まっている。しかしこれまで心エコー図検査による右心機能評価は、右心室の複雑な構造などの要因により困難とされてきた。そこで右室の特性に影響を受けない指標が求められており、その一つとして Tei-index が知られている。われわれはその Tei-index を既報と比較して多くの肺高血圧症例へ適用してきた。その結果 Tei-index は肺高血圧症群で有意に高く、その重症度とも良好に相関することが明らかとなった。このことより従来の評価方法を適用できない症例においても Tei-index を用いることで診断・重症度を評価し得る可能性を示した。今後も症例を積み重ねると同時により侵襲的ではあるが正確に血行動態を評価可能な心臓カテーテル検査指標との関連を検討すること、予後や心不全発症との関連と検討することでいまだ未知の部分が多い肺高血圧

症に関する知見を蓄積していくつもりである。今後も研究の成果を発表することで獣医臨床が発展していくことができるよう邁進していく。

今回博士課程教育リーディングプログラム「One Health に貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム」の助成により全国規模の学会において発表する機会を得て、申請者が博士論文のテーマとして行っている研究について同様の分野を専門として研究を行っている先生方とディスカッションをすることができ、自身の研究における問題点、今後追求すべき点について認識することができ大変有意義であった。今後は国内学会はもちろんのこと、国際学会においても発表できるよう研究、診療ともに行っていくつもりである。

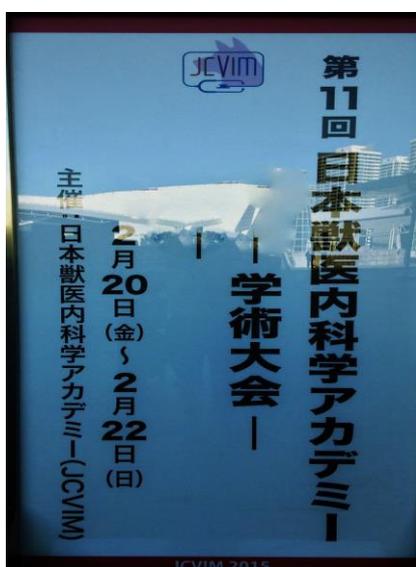


図1：学会ポスター

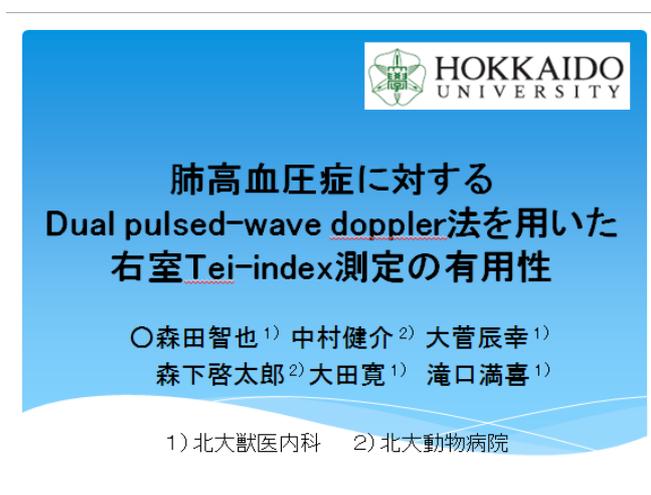


図2：発表スライドの一部

指導教員確認欄	所属・職・氏名： 獣医内科学教室・教授・滝口 満喜 印
---------	--------------------------------

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp